

# ブリテンの魔術師

TG( `・ω・´ )

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

気づいたらブリテンに転生していた男が色々する話。

注意：初めての投稿なので機能がよく分からないし、作者はfat eガチ勢ってほど知識があるわけではないので大目に見てくれると助かります。

# 目次

俺、転生	1
俺、修行ナウ	5
俺、実験ナウ	9
俺たち、聖剣GO!	12
アルからのOHANASSI	16
俺はナニをしたのか…?	19
遅れて気付いた真実	24
王とは	28

## 俺、転生

目が覚めるとそこには天井がある。

… 当たり前だな… いや待てよ？

俺の部屋の天井にはポスターを張っていたはず！無くなっている！？

あれ？壁紙の質まで変わってね？

どうなっている！？

「あら、起きたの？」

女性の声が聞こえる。

振り向こうとしても何故か首が動かん！

「あうああえ？」

… 「あなた誰？」 って言ったのに変な声が出た。

え、マジで俺どうなったんの？

身体動かんし、声は出ねえし、もしかして包帯でぐるぐるになってる？

「どうしたのかしら？」

女性の顔が見える。

… でかくね？

「はくい、たかいたかくい。」

女性は俺の身体を持ち上げる。

その細い体のどこに俺を持ち上げる筋肉が！？

いや待てよ… もしかして俺が軽いのか？

女性の後ろにある鏡を見る、チラ！

… 俺、赤ちゃんになってる。

「うぎやあああああああああああああ！！！」

「え！？どうしたの！？」

なんでだよおおおおお！！！！

ブリテン転生：3年3か月2日

三歳の誕生日のお祝いに貰ったが使う機会が無かった手帳に転生してから今までのことを書こうと思う。

俺は転生した。

重要なことだからもう一度書くがマジで転生した。

死んだ記憶はないんだけどなあ…

まあそれは置いておくとして、俺は貴族の家に転生したらしい。

時代錯誤とかそういうのではなく過去に転生した。

…現代が遠いんじゃないか…

めちゃくそ不便なんだが。

まあでも現代の利器なんて作れるほど頭が良いわけではないから我慢するしかない。

しかし一つだけ言いたい。

飯がまずすぎる！

何だこれは!?

生の野菜に塩かけただけみたいなものを料理とは言わん！  
せめて野菜を洗え!!

そして切る!!

畜生!! 厨房に危ないからって入れさせてくれないし文句を言っても聞いてくれないし! 最悪だあ!!

ブリテン転生：4年5か月6日

今日はこつそり美味しいものを食べるためにお出かけをした。しかし食べ物の店がない。

やっぱり料理技術が無いから売れないのかな?

仕方がないので自分で食事を作る為に森で野鳥を狩った。

調味料が塩しかないのが辛い。

まあ美味しかったのだから別にいいんだが一つ面白いことがあった。

遂に友達ができたのだ! この人生で初の友達だ!

… 少し言い訳をさせてほしい。

俺は貴族の家に生まれて外に出たことなんて数えられるくらいしかない。

それにあつたことがある子供なんて貴族の子か俺を貴族と知って敬う奴くらいしかいなかった。

だから友達と言えるほど仲良くなった人なんて一人もいなかった。

まあ友達がいなくても別に良かったんだができることやっぱりうれしいな!

ちなみにその友達は女の子だ。

名前はアルトリアというらしい。

アルって呼ぶことにした

ブリテン転生：4年5か月7日

夢に変なお兄さんが出てきた。

なんか話しかけてきたんだが長かったので要約すると魔術の才能があるから教えてあげようって話だった。

正直知らない人にそんなこと言われてもな〜って思ってたけど、夢の中に何故かアルがいた。

彼女も学んでほしいというので教えを受けることにした。

ちなみにこのお兄さんの名前はマーリンというらしい。

なんか胡散臭さを感じる。

## 俺、修行ナウ

ブリテン転生：7年7か月23日

ようやく魔術師として一人前になった。

しかし、マーリン曰く、それは一般的な魔術師として一人前だけでマーリンの理想の魔術師にはまだまだ遠いそうだ。

なんか語っているときの顔がうざかったので魔術でビームを撃つたけどはじかれた。

逆にマーリンが魔術を撃ってきた。

お前大人げなさすぎだろ!!

まあ魔術でガードしたけどな!

でも防ぎきれなくて痛い思いをしたがなあ!!

マーリンがどや顔してるからもう一度撃ってやろうかと思っただけどやめた。

アルに慰められた。

そのことが悔しいのかそれともかわいい子に慰められてうれしいのか分からない。

ブリテン転生：9年2か月15日

夢ではなく現実で騎士として一人前になった。

俺は貴族だけれども三男だから家督を得ることができない。

だから騎士などで自立できるようにならなければ追い出される。

しかしもう自立条件が整ってしまった。

一人立ちはまだ早いんじゃないのかな?

まだ子供だから早いと反抗したが10歳の誕生日に自立することになった。

…親父、さすがに10歳で自立は厳しいぜ…

自立の件を夢の中で話したところアルの家に居候していいとのこと



と。

うれしいけど申し訳ない気持ちでいっぱいだ。

ブリテン転生：10年ピツタリ

とうとう自立する時が来た。

少しのお金と今まで使っていた剣を渡されて追い出された。

・・・見送りが誰もいなかったことが地味にショック。

まあとりあえずアルの家に向かおうと思ったときに気づいた。

俺家の場所知らん。

マジで焦ったがとりあえずアルと初めて会った場所に行ったらアルがいた。

笑顔で待っていて思わず倒れてしまうくらい俺のハートがキュンってした。

危うく恋に落ちかけたぜ!!

アルに連れられて家に向かったのだが途中でケイとかいうガキが通せんぼしていた。

なんか妹はやらんとか勘違いしたことを言っていた。

しかしこのガキめつちや毒舌なのだが。

俺泣いちやうよ?マジで。

そう思っていたらアルにぶっ飛ばされて思わず笑ってしまった。

まあなんやかんやあって俺は友人の家庭に受け入れられることになった。

ブリテン転生：11年3か月9日

最近森にワイバーンがいることを知り、ちよつと狩りに行った。

結果は・・・楽勝だった。

ほんとに弱かったんだが、やっぱり空飛ぶとかげってやつかな?

特に魔法が効く、魔法で撃ち落としたり大体の奴が虫の息なんだが。

あれ？もしかなくても俺が無双する時が来てしまったのでは？ちなみに倒したワイバーンは別に死んでるわけではないので一匹だけ絞めてそれ以外は逃がすことにした。処理がめんどくさいし食べきれないからね!!

しかし持って帰ったワイバーンの三割をアルが平らげてしまったので食べきれないという認識は変えた方が良いのかもしれない。

ブリテン転生：13年5か月14日

この生活にも慣れていつも通り、森でワイバーンと殺し合おうと思っていたがこの日は違った。

なんとアルが試合をしたいと言ってきたのだ!!

いやいや俺なんて君と比べれば雑魚みたいなものだといったのだが押し通されてしまった。

仕方がなく戦ったが… いやめっちゃ力強いじゃん!!

なんだよそれ!?!身体はどこにそんな力があるんだよ!!

受け流すので精一杯なんだけど!!

技術ががまだまだ拙いから無傷で済んだけどもう一回やりたいとは思わないな。

もう一度やるとしてもせめて手加減を覚えてからだな!

ブリテン転生：14年6か月27日

遂にマーリンに傷を負わせることに成功した!

しかも腕を吹っ飛ばしてやったぜ!!

めっちゃ罪悪感沸いたね!

んでもって、すぐに治ったけどね!!

なんだあの魔術!?!いつの間にか腕が服ごと元の状態に戻っているんだけど!?!

しかし、最近のマーリンの魔法の授業が投げやりになってきている。

もう少し師匠であることを認識してほしいなあ…

## 俺、実験ナウ

ブリテン転生：15年6か月4日

最近のマーリンの授業が魔導書渡されるくらいなので自分で魔術を創ってみた。

とりあえず最近覚えた召喚術に色々混ぜて凄いやつを創れるようになりたい!!

まあ失敗して気持ち悪い触手お化けができたけどね!

いやしかし危なかった、マーリンがいなかったら俺とアルが触手プレイを受けるところだった。

アルのはともかく俺の触手プレイなんて誰も見たくねえよな…

マーリンに三か月間の召喚術の禁止を言い渡された。

仕方ねえ!今度は変化の魔術で遊ぶか!

ブリテン転生：16年4か月13日

召喚術の改良を重ねた結果、元はただの蟲を呼び出す魔術だったのに今では5メートルあるヘラクレスオオカブトを召喚できるようになった。

あれ?俺また何かやっちゃいました?って言うのはこういうことだね!!

でもワイバーン三体分とおんなじ位の戦闘能力だからまだまだだね!!

今度は犬の召喚術を改良しようかな?

ちなみに現実では武器に変化などの魔術を使って魔剣モドキを作ったりしている。

そういえばケイが炎の剣を振り回して火傷してたな。

そうだ!フライパンでやればいい感じになるのでは!?

物は試しだ!レッツトライ!!

ブリテン転生：16年7か月22日

長年使い続けてきた剣が壊れてしまった。

まあ壊れたこと自体はどうでもよいのだが、問題は壊れた剣にあった。

ワイバーンの怨念がめっちゃ固まっていたのだ。

これには俺も殺しすぎたなど考えたけどよくよく見てみると竜殺しの特性があることに気づいた。

剣が壊れたけど良き素材ができたのでよしとしてやろう。フハハハハハ!!!

壊れた剣を溶かしてワイバーンの牙とか爪とか色々混ぜ混ぜして黒い杖を作った。

長さ150cmの禍々しきを感じるかつちよいい杖ができたぞー!!

しかしこの杖、魔力を吸ってくるのだが…

しかも形が変わったり黒い煙を纏ったりしてるんだが…

ま、まあ凄い杖ができたし問題はないと思いたい。

あとワイバーンの親玉みたいなのをペットにした。

10メートルくらいあるのに弱かった。

正直食べようかどうか悩んだけれど乗り心地が良かったので飼うことにした。

「え？聖剣を抜け？」

「うん。君じゃなくてアルトリアがだけどね。」

いつも通り、夢の中で魔導書と戯れて魔術をコネコネしてたらマールンに話しかけられた。

なんだよ聖剣って、中二心がくすぐられるじゃないか!!

是非とも行こう!!

「ちなみにどんくらいで行けるの？」

「うくん…馬車で二週間？」

え？結構遠くね？

「まあでも君がいるならすぐに着くだろうね！」

「いやいやそんなに早く行ける方法なんて…あ。」

「そう！最近君が飼いならしたワイバーンがいれば三日で着く！あ、聖剣を抜くのは六日後で頼む。」

何故に六日後？

まあ別にいいけど。

夢から醒めたら、ケイを叩き起こすか。



いやあ… やつと町に着いたぜ!!

マーリンの野郎め… 三日とか言っておきながら三時間で着いた  
じゃないか!

嘘つきめ!!

「それは!あなたの、せい… はあ、はああ、うつ!?ゲほ!?ゴホ!」

「おい!?大丈夫か!?しっかりしろ!!」

「あなたの… せいでしょうが…」

何故か分からないが気分が悪いアルを休ませる為にベンチに寝か  
せる。

アホ毛がぐったりしている!?

仕方がない!膝枕もしてあげよう!なんて俺は優しいんだ!!

しかし何で気分が悪いんだろうなあ? (すつとぼけ)

え?ケイ?ああなんかニューカマーお兄さんなお姉さんたちに連れてかれ  
たよ。

まあケイだからいいよね! (愉悦)

「うう… 気持ち悪い…」

「安心しろ、時間はまだまだあるぞ。」

「そのせいで私が今辛い目にあっているのですが…」

「ふっふっふ… 俺は過去を見ず未来を見据える男!」

「言い方を変えれば失敗しても復習しないバカですよ。」

「くっ!?俺のハートが碎けるほどの毒舌!どこで学んだ!?!」

「そんなの一人しかいないでしょう?」

「… ケイか… あとでワイバーンにハムハムさせるか…」

「そうですね、ワイバーンはハムがいいと思います。」

「やつぱリアルの中の食事でいっぱいなんだな。」

「む!?私はそんなに食いしん坊じゃないですよ!」



まあ時間はたっぷりある。  
つかの間の二人きりの時間を楽しむとしよう。

アルに膝枕をしてから二時間後、ケイと合流した。  
ケイのは何というか、その… まあげっそりしていた。  
ナニがあつたのかは聞かないけどアルを見て号泣するのはやめてほしい。

周りの人の視線がづらいからマジでやめてほしい。

あと太ももがやばす。

二時間はやりすぎたよ…

まあ適当に宿屋で部屋借りてあとは何故かわからんがお祭りみたいな感じになっている町を散策しようかと思っていたのだが…

「アーロン、話があります。」

アルから話を持ち掛けられた。

真面目な顔をしてる。

これはしっかりと話を聞く必要があるそうだ。

だが俺は不真面目な男！真剣すぎるのは好きじゃない！だから…

!!

「なんだ？告白か？」

おちやられた回答をしてやろうではないか!!

「違いますよ、ふざけないでください。切りますよ？」

「ごめんなさい。」

ふっふっふ…ごめんなさい。

## アルからのOHANASI

アルから話があるそうさ。

とりあえず、二人きりになれる場所で話したいということ、町を散策する。

しかし先ほどから謎の視線が…

「なあ、後ろから変な気配を感じるんだけど。」

「十中八九、ケイ兄でしようね。」

「あのシスコン野郎… プライバシーを理解しているの?」

「すみませんプライバシーとは?」

Oh… この兄妹、似た者同士やないか…

二人きりになりたいと言ったのにしつこいやつだなまったく…

いや待てよ?二人きりになりたいという言葉がアウトだったので  
は?

あのシスコン野郎!早とちりしやがって!!

「アル、ケイが覗き見してても話せる?」

「できればいいですけど。」

「なるほどなるほど…」

じゃあ最近覚えたテレポートもどきで逃げるか!

「アル、ちよつと手を握るね。」

「え!?そんな急には…!!」

ぬ!?後ろの気配がめっちゃ強くなった!?

早くテレポートしなければ!!

「おい!!おまえ「テレポート」ちよつとまっつ

一瞬で目の前の景色が変わる。

なんか聞こえた気がするけど気のせいだな、きつと。

「ここは…?」

「湖だよ。」

「いえそいうことではなく… やっぱりいいです。」

なんか諦めを感じる顔してる。

なんか不満でもあるのかな?

「不満はありますが言っても聞いてくれないでしょう?」

「いや聞かないわけではないのだが…なぜ心が読めた。」

やはりこの兄妹にはプライバシーの概念がない!

まあそれはそうとして…

「そういえば話したいことがあるんじゃないかなかったの?」

「そうですね!そのために移動したんですよ!」

「まあまあそんなに怒るなって、餡あげるから許してくれよん。」

「許しません!けど餡はもらいます!!」

怒るアルの周りにぶんぶんみたいな擬音が見えるような気がする。

怒る顔もかわいいんだけれどこの子、天使かな?マジで天使かな?

ああ!!餡をなめた時の顔がまたかわいい!!アルめ!!俺をキュン死

させる気か!?

は?!意識が変な方向に行ってしまった!?

落ち着け俺…落ち着け俺…

よし落ち着いた。よし!ちよつとカツコつけた感じで…

「それで?話って何だい?」

「それはですね…」

ちよつともじもじしてるんだが…?

告白か!?!告白なのか!?!

「…私がどんな人になっても外道に落ちてもずっと私についてくきてくれますか?」

… おつもいこというなあ… これ答え方次第では大変なことになる奴じゃないか?

「そうだねえ… まあアルが外道に落ちるなんてことは俺がさせないとだけ言っておこうかな。」

「それはつまり…!!」

期待に溢れたアルの顔。

そんな期待したことが顔をしないでくれ!!

「ずつと」ってわけではないことを言いたかったんだけなんだ!!

「まあ解釈は人それぞれということでは…」

「なんで焦らすんですか!!」

「ははははは、さあ帰ろうか! ケイが心配しているだろうしね!!」

「ちやんと答えてください! あとケイ兄のことなんてアーロンが考えているわけではないでしょう!!」

このまま話しているとアレだから…

「アルだけ宿屋にテレポート!!」

「あ、ちよつと」

アルが目の前から消えた。

… ようやく静かになったぜ…

しかしずっと一緒ねえ… 重いといふかなんといふか… でも

「案外悪くないかもな。」

湖の水面にはにやけている俺の顔が映っていた。

俺はナニをしたのか…？

やあみんな！俺は今、湖の岸でごろごろしてるよ！

アルの機嫌が怖いので魚でごまかせないかと考えているよ！！

まあ一匹も釣れなかったんだけどね、ハハハ…

さて、そろそろアルを宿屋にテレポートさせてから2時間ぐらいたったしそろそろ帰るか。さすがにもう落ち着いたよね？

「テレポート」

視界が変わり自然豊かな湖から少女が一人いる宿屋の部屋に…  
え？

「ずっと待っていましたよ、アーロン？」

なんか目の前にアルがいるような…

気のせいかな!?気のせいだな!!

よし!ちよつと森に帰ろうかな!ははははははは…

「テレP」させません!!」んぐ!?!」

うぐ!?!さ、さすがアル!!まさかハグをしてテレポートを防ぐとは!!

でもちよつと力が強いかな!?ちよつとていうかマジでヤバイ!内

臓が圧迫されてガチで死ぬって!!特に胃がヤバイ!!

「たの、ちよつマジで死ぬって、ほんと、頼む…」

「嫌です、答えるまで話しません。」

いやもうほんとに死ぬから!マジで!!いいの!?!俺吐いちやうよ!?!

ゲロつちやうよ!?!」

「アアアアアオオオオオオオオオオオン!!?!」

扉が壊れるくらいの勢いで開いてケイが現れた。

すごい勢いだ!いいぞ!!その勢いでアルのことを…

「ケイ兄はちよつと黙っててください。」

「いやしかし!!」

「ケイ兄?」

「う…分かった。」

え?ケイ?ちよつとそんな簡単に逃げんなよ!!

「た、頼む、助けて…」

「アーロン…がんば。」

おまえマジで許さんほんとにマジで許さん。

次会ったらボコボコにしてやる！あ、次があるのかな？ははははははは、あ、もう駄目だ。

「おろろろろろろろろろろろろろろろろろろ」

「アーロン!?!」

アル、俺を抱きしめたことを後悔するがいい…

… 身体がなんかだるい。

朝起きてすぐにそう感じた。

ん？上半身が裸になってる。

ああ、オロロしたから脱がされたのかな？

なんか俺の毛布が濡れてるんだが…

あれ？なんか俺のベットの所に誰かいない？

… 嘘だろ、いやきつと誤解だろう。

まさか裸のアルいるとかそんなことはないはず。

だよな？

「おはよう、アーロン。」

「ああおはよ…う…?」

「どうしたアーロン？」

う、?..だろ？

「なんで… ケイが…」

「ああそうだったな。」

言うな！言うんじゃない！

「昨日は激しかったね／＼／」

「うそだあああああああああああああああああ

!!!?????  
」

「は?!..!!..は?!..」

「お目覚めですか？アーロン。」



ここはどこ…？私は…アイロン？

は!?記憶が飛びかけていた!!

ここは…宿屋の部屋。

服は…新しいのになっている。

毛布は…少し湿ってない?気のせい?

そしてベットの上にはアルが一人。

ああなんだ、さっきのは夢だったのか…あれ?なんかおかしいよ  
うな?

「どうしたのですか?」

「え?...いやなんでもない。」

なんだろう理性が全力で理解することを拒んでいるような...?

「ああそういえば言っておくことがありました。」

「...聞きたくない。」

めっちゃ聞きたくない、というか夢であってほしい。

「昨日は激しかったね／＼」

「うぎやあああああああああああ  
!!!!??」

「ちなみに冗談なので本気にしないでください。」

え？マジで？

「ああ、あく、冗談かよお、責任とるために切腹するところだったわ。」

「切腹!? いえ普通に結婚とかそういう選択肢があると思いませんか!？」

は？なにいつてんの？

「アルは顔も性格も完璧だから俺なんかでは釣り合わないから俺よりもつとイケメンで性格がいい人と結婚するべきだね!!」

「いえそんなこと・・・」

「まあ俺よりもよい男なんて存在しないけどね!!」

むしろいるって言うんなら見せてみな!!

「アーロン・・・ そういうところですよ。」

なんかアルがあきれている。

いやいや俺以上の男のなんていないって。

いたら変態に墮とすから俺よりイケてる男はいない!!

「アアアアアロオオオオン!!?!この状況は一体どういうことだアアアアアアア!!!」

この状況?・・・ アルが俺のベットの所で寝っ転がっている状況。

え?これアウト?シスコンにもほどがあるだろ!

まあ適当にケイをなだめて町に出かけるとしよう。

## 遅れて気付いた真実

どうもアルに熱烈なハグ（物理）をくらって意識を失ったら朝になつていたアロンです。

疲れた、ほんとにマジで疲れた。

ケイがゲイになる夢を見て、

アルが大人になった（意味深）という嘘をつかれて、

俺、苦労してんなあ…

しかし何も食べていないせいで腹が減つたな。

なんか適当に飯でも食べに行こうかな。

「あれ？アロン、何をしているのですか？」

「飯でも食いに行こうかと思つてな。」

「ご一緒してもよろしいでしょうか？」

「いいよ…あ、いや遠慮したいな。」

やばいことに気づいた。

アルつてめっちゃ食うから俺の財布君が軽くなつてしまふじやないか!!

ということ遠慮してほしいマジで。

「嫌です、では行きましょう。」

無理だったね、そもそもアルが食べ物関連のことで遠慮することなんてないよね。

さらばだ財布君、またいつか会おう。



ちよつと気が動転しちゃったな、うん。

しかし型月かあ、マーリンが想像以上にマーリンだったね。

聖剣抜いたらアルトリアが騎士王になっちゃうんだよな？

…ブリテンって結構詰んでる国だったような気がするんだが？

うん、聖剣抜かせたら駄目だな。

いや、一応聞いておくか。

「アル、聖剣を抜くと王になるんだけどさ。」

「急にどうしたのですか？」

「アルは王になりたいの？」

もしもアルがなりたいたいというのであれば俺は全力でアルを支える。

ならないというのであればマーリンとの繋がりを切る。

いやそもそもアルは、

「はい。」

…だよな、アルはアルトリア、アルトリア・ペンドラゴンだ。

ここはフェイトの世界だもんな、そりやなるよな。

「どうしてそんなことを聞いたのですか？」

「えっと…なんとなくだな。」

「そうですか、なんとなくですか。」

アルは気を使ってなんとなくということにしてくれた。

ええ子やわ。

よし！アルが王様になったら全力で支えてやる！

そういえば聖剣を抜いたら成長が止まるんだっけ？

… つまりアルには未来が…

かわいそうに、どうか何故槍王はボインだったんだ？

「なんか失礼な気を感じたので切ります。」

「ちよ!?!え!?!横暴すぎるって !!」

こいつ！心を読むんじやねえ!!

王とは

アルが王様になるそうなので…

「王様じゃない今じゃなきや楽しめないことでもしよつか。」

「そうですね！ところで何をするんですか？」

「そうだなあ…」

… 思いつかん。

王様とかやったことないから何ができないのか分からないんだが？

「アーロン？」

「え？あ、そつそう！アルがやりたいことをしよう!!」

「私のやりたいことですか？」

「そう、アルは王様になったらやりたいことが自由できなくなっちゃうからね！」

「そうですね… うゝん」

困ったときは人に任せる、これ大事。

「あ！お腹いっぱい食べたいです!!」

… アルらしいな、うん。

「なるほど… どんなのが食べたい？」

「いろんなものが食べたいです！」

「なる… ほど…」

いろんなものか…

まさか思いつかなかったから曖昧にいったわけではないよな？  
まさかな…

「ちなみにどういう系のやつがいい？」

「おまかせで！」

こいつ!?!俺に全部任せる気だな!?!

この野郎!!あ、野郎じゃねえわ。

まあせめてもの仕返しだ、めちやくちや大量の料理を用意してやる  
!!

くつくつく、食べきれなくて涙目になっているアルが目には浮かぶぜ

!

どうも絶望したアーロンです。

アルのためにたくさんの料理を現在進行形で作っているんだけど作り終えた料理が一瞬で皿になって帰ってきているアーロンです。

おかしいな、念のために肉500キロと野菜や果物500キロくらい魔術で育てておいたのにな。

あれ？もう半分も無くなってないか？

さらにホムンクルスとか増員して三秒に一回は一品完成する速さだぞ？

さすがは腹ペコ王！人の限界を超えていく！

… うん、本当に人間か？

あ、そういえばマーリンが竜の因子がどうか言ってたな…

まさかそれが原因か!?

あの野郎め!!次会ったら男のシンボルが小さくなる呪いをかけてやる!!

まあそれは置いて…



「アル、もうちよつと味わって食べてくれない？」

「美味しすぎて無理ですね。」

「そっか・・・」

う、うれし!!

めっちゃ嬉しい!!

うれ・・・ あれ？美味しいのと早く食うのは別では？

・・・ マーリンめ!!次会ったらEDにしてやる!!

「おいアロン、何やってんだ？」

「アルの底なし胃袋を満たそうと思つて・・・」

「お前そんなにバカだったのか・・・ アルのはらを満たそうなんてブリテンの食料かき集めても足らんぞ。」

「そもそもブリテンにそんな食料ないだろ。」

「それもそうだな。」

「H A H A H A H A H A H A!!」

「早くおかわりください。」

あ、はい。すぐにご用意します。

まあそのあとホムンクルス100体増員して俺も食事になりついたらんだけどネ!!

しかし、工場のように生産されていく料理が一瞬で皿になっていくんだが・・・

うん気にしない!!俺も食うぞ!!

「あ、待ってアル、それ俺が食べたいやつ・・・ もう皿まできれいになってるね、うん。て、おいケイ!俺のとつておいたやつを食うんじゃない!アルが真似するだろうが!・・・ うわあ!?!もう無くなってる!?!アル!!貴様加減を知れい!!」

そんなこんなで楽しく飯を食ったぞ!楽しくな・・・ 食べたかったな、ローストビーフ。

ケイが酒飲んで吐いたり、アルが強烈すぎるハグをしてきて背骨が折れたりしたけど魔術でどうにかしたぜ!!

魔術つてめっちゃ便利よな。

でも治るからOKというわけじゃないんだよアル、ハグはうれしい



しかしなぜだろうか俺にはその姿が哀れに見えた。

もつと別の人生があつたんじゃないか、全力で止めておけばよかったのではないかと思ってしまう。

俺がそう思うことすらおこがましいというのにどうしようもなくそう感じた。

だからこそ俺は憐憫でもって彼女に誓おう。

何故あるか分からないこの命のすべてを尽くしてもブリテンを救うと。